

山田みやこの活動報告

令和7年6月14日（土）

3月21日に実施されたイタリア式避難所システムを基にした実働訓練の実施報告をオンライン視聴。実際に3/21に食事支援担当で参加しましたが、全体の動きが把握できなかったので、今回各担当者からの報告があり全体が見えた。

1) キッチンカーによる食支援

報告者：一般社団法人ながの移動販売つなぎ局 村上裕紀子さん

災害時に自治体と協働して活動

キッチンカー3台で他キッチンカーとノウハウを共有しバランス良い食事提供

当日は被災者250人 支援者50人 体制

調理済み食をキッチンカーで運びこみ、保温、きざみ食も対応

メニューは定食とうどんで給仕方式（様々な意見あり）

排出ゴミ、調理人の確保が課題

2か月に1回、キッチンカーと他機関の食支援勉強会を実施

2) 緊急時における子ども支援

報告者：長野市緊急時における子ども支援ネットワーク 廣田宣子さん

行政と市民の協働重要

令和元年東日本台風がきっかけとなり、平時から寄り添う支援を行政と民間のネットワーク作りの為、学習会・交流会にて共に考えてきた。2024年内閣府のモデル事業として体制づくりを実施。

長野県から全国へ普及するためのスタートとなった。

3) ジェンダー視点による避難所設営・運営訓練

報告者：芹田地区住民自治協議会・地域活動男女共同推進委員会会長 塚田和子さん

平時からジェンダー平等必要

避難所では健康カード提出

トイレ、乳幼児、高齢者、洗濯物への配慮

女性の参画によるプライバシー確保、コミュニケーション、妊産婦・乳幼児支援

心のケア支援、多様性の認知等で地区委員のなり手不足でも少しでも支援につなげる。

4) 避難所設営

報告者：伊那市(株)シェルターワン 児島さん

資機材の計画、調達、設置撤去

12時間以内に設営

居住用シェルター2人用（短時間で組み立てられる）

基本は自助だが、地域防災力の強化のための共助が破綻している。

その為、企業団体のネットワークが求められる。

5) 福祉支援

報告者：長野県社会福祉協議会 山崎博之さん

避難所内に災害ボランティアセンター設置

メンバーは社協、応援市町村社協

諏訪防災ネットワーク サスながの（企業パートナーズ）

DWAT（災害派遣福祉チーム）で構成

第7回（オンライン）
災害時の連携を考える
ながの長野フォーラム
～参加と協働でつくりだす“命をまもる48時間”～
2025年 **6月14日** 10:00～11:30 日 土曜日
完全オンライン配信
※申込不要 (YouTube)
開催時間になりましたら右記チャンネルよりライブ配信いたします。
〔長野県NPOセンターYouTubeチャンネル「@ngo3661」〕
また別チャンネルで後日アーカイブ配信も予定しております。
＜主催＞ 長野県、長野県災害時支援ネットワーク(N-NET)
＜後援＞ 長野県NPOセンター、長野県生活協同組合連合会、長野県社会福祉協議会、日本労働組合総連合会長野協議会、長野県民社会福祉センター、日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会、長野県弁護士会、ながの移動販売つなぎ局、日本防災士会長野支部、長野市災害ボランティア委員会、長野県介護福祉士協会、信州大学地域防災センター
＜問い合わせ＞ 認定特定非営利活動法人 長野県NPOセンター
☎ 026-269-0015 info@ngo-nagano.org
長野県災害時支援ネットワーク (N-NET)

※イタリア式避難所実働訓練では、

災害関連死といわれるものは実は避難生活死である。ゼロにするために、災害発生後48時間以内に避難所設営、そして被災自治体に大きな負担がかかる方式ではなく、近隣の自治体・民間のネットワークで支援に入り、財源は国が負担する、というイタリア式の実践が災害の多い日本にとって大変必要となってくる。長野県に続くため、栃木県でもこの訓練を望む。